# 株式会社 サンフレッシュ小泉農園

## 経営のプロフィール

**経営概要**
トマト（20,000㎡）
水稲（飼料用米20ha）

**主な施設・機械の保有**
トマト養液栽培施設（20,000㎡），
ハイブリッド暖房（温風暖房機 16台，ヒートポンプ 40台），
炭酸ガス発生機 16台，植物生育診断装置 3台，
バッテリー高所作業台車 20台

**構成員等**
組合員：3名
役員（理事，取締役員等）：3名，
従業員（常時雇用）：2名，パート25名

**法人設立年月日**
平成26年10月8日

**認定農業者認定年月日**
平成26年10月27日

**資本金**
500万円

**販売額等**
1億6,000万円（平成28年度）

**役員名**
代表取締役：今野 圭市　取締役：及川 衛，芳賀 和之

**補助事業，制度資金活用実績**
・東日本大震災農業生産対策交付金
・宮城県農業生産早期再興対策事業補助金

## 1 現在の経営状況等

### (1) 経営理念，キャッチフレーズ等

（設立時）：新たな農業形態による被災地再生のモデルとして，また地元雇用を生む事業として成長し，地域に必要とされる企業を目指す。

### (2) 栽培技術の特長

トマトは8月に定植して10月から翌年7月まで収穫する長期多段取り栽培で，環境制御システムにより温度や炭酸ガス濃度，かん水量，日射などを制御している。また，平成27年度からITを活用したトマト生産者間ネットワークに参加し，毎週行う生育調査と植物生育診断装置のデータからトマトの生育バランスを判断して，以降の環境制御や管理作業に役立てている。

### (3) 販売の特長

生産されたトマトの約9割が系統出荷であり，それ以外は法人とJA南三陸が地元で直売している。なお，出荷できないトマトは県内業者に加工を委託し，「トマトソース」として販売している。

### (4) 労務管理の特長

食品の安全性向上だけでなく農作業時の安全確保に役立てるため，グローバルGAPの取得に向けて準備を進めている。

### (5) その他，特筆すべき事項

株式会社サンフレッシュ小泉農園が生産するトマトを「波乗りトマト　とまたん」と命名。平成27年7月に「とまたん」を商標登録した。園芸施設の目の前に広がる小泉海岸がかつて東北有数のサーフスポットだったことと，法人の事業運営と地域の復興が波に乗ることを願って名付けた。

## 2 法人設立までの変遷

### (1) 法人設立の動機，きっかけ

東日本大震災により小泉地区の農地約46haが被災。震災後は瓦礫処理場として利用されていたが，平成25年9月で終了した。気仙沼市が行った営農再開に係る意向調査では農地所有者の約95%が耕作を断念するという結果であり，同地区の農地は耕作放棄地になる可能性があった。このような状況の中，有志数名により水稲受託栽培の取り組みが検討されたが，採算性や地元の雇用創出を考え，稲作と大規模な施設園芸を行う法人を設立することになった。

### (2) 法人化に至る経過等

平成25年に震災復興プロジェクトとして始動。平成26年には地権者への説明を行うとともに栗原市の有限会社サンアグリしわひめにおいてトマト養液栽培の研修を開始し，同年10月に株式会社サンフレッシュ小泉農園を設立。平成27年9月にトマト養液栽培施設が完成し，栽培をスタートさせた。

## 3 今後、将来に向けてのビジョン等

### (1) 将来ビジョンと経営戦略等

小泉地区の農地を荒廃させること無く後世に引き継ぐことが自分達の使命と考えているが，水稲単作では経営的に難しいことから，大規模な施設園芸により採算性を確保しながら米作りも行っていく。

### (2) 達成に向けた課題及び取り組み状況

トマトの環境制御技術を向上させ収量と品質を高めることにより，経営の早期安定化を図る。

（調査：気仙沼農業改良普及センター）

## 略図

**株式会社 サンフレッシュ小泉農園**
〒988-0317 気仙沼市本吉町北明戸7番地3
TEL　0226－28－9158
FAX　0226－28－9159

**視察受入条件**

要相談